

山口情報芸術センター [YCAM]

大友良英 + YCAM 新作展「即興！」

2026年10月17日(土)～2027年3月1日(月)

先行展示《without records》: 2026年7月24日(金)～

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA、スタジオB、ホワイエほか

音楽家・大友良英の集大成となる大規模展を開催
136日間におよぶ予測不能な「即興」的インスタレーション
先行展示《without records》2026年7月24日(金)より

メディア・テクノロジーを用いた新たな芸術表現の探求と実践を行うアートセンター山口情報芸術センター [YCAM]は、2026年10月17日(土)～2027年3月1日(月)まで大友良英 + YCAM 新作展「即興！」を開催します。大友良英は、フリージャズ、即興演奏、ノイズ音楽、映画音楽など国内外の多彩なシーンで活動し、常に表現の可能性を拡張する試みに取り組んできた音楽家の1人です。本展は、大友の創作の基軸であり、アンサンブルの根底にもある「即興」をテーマに、大友とYCAM、そしてさまざまなジャンルのアーティスト5名とのコラボレーションによる新作展です。YCAMで芸術表現の制作などに特化した研究開発チームの「YCAM InterLab」が共同で制作に携わります。磯崎新設計によるYCAMの建物の特徴や周囲の環境にも呼応して、多彩な音や存在がぶつかり合い、響き合う、即興の豊かな世界を開いていきます。本展開催に先駆け7月24日(金)より大友良英と美術家・青山泰知、エンジニア・伊藤隆之との共作、サウンド・インスタレーション《without records》の先行展示を行います。また、10月17日(土)からは、音楽家・坂本龍一へのトリビュート作品《DUO》、現代美術家・持田敦子とのダイナミックなインスタレーション、さらに音楽家・



大友良英 + 青山泰知 + 伊藤隆之 《without records》(2008)
撮影: 丸尾隆一 (YCAM)

Sachiko Mと大友のユニット Filamentによる野外のサウンド・インスタレーション作品《"filaments" in the Park》を公開します。

感覚を開き、多様な他者との即興が繰り広げる予測不能な136日間の実践にご期待ください。

山口情報芸術センター [YCAM] 学びと共創課 広報担当
TEL: 083-901-2222 / Email: press@ycam.jp

[プレス問い合わせ] 広報事務局 担当: 鎌倉 [hilo Press 内]
TEL: 090-7239-1885 / Email: pr@hilopress.net

©本展の広報画像は右記URLにアクセス申請してください URL: <https://tinyurl.com/6navadn2>

本展のみどころ

1. 大友良英「即興」の集大成となる大規模展

大友にとって「即興」は、創作の発想の根幹にあるものです。あらかじめ決められたものを再現するのではなく、演奏が行われる場を構成する共演者や聴衆、環境などのさまざまな要素との相互作用により、生成される表現や、コミュニケーションを基盤とすることが大友にとっての「即興」です。単に個人の表現として作品があるのではなく、多くの人々の即興的ともいえる協働の結果として作品が生まれるという考え方がその根底にあります。本展は大友にとっての「即興」という考え方やその実践を、展示作品として集大成し、表現やコミュニケーション、人や社会との繋がり方として「即興」的であることの意義を問いかけます。



展覧会ロゴ「即兴！」
デザイン：垂井美穂

2. トリビュート作品 坂本龍一との即興演奏を生成する

YCAMともゆかりの深い、音楽家・坂本龍一と大友は、これまでピアノとギターというシンプルな編成で多くの即興演奏を行ってきました。大友による坂本へのトリビュート作品《DUO》は、AI等の音響解析や再現の技術は一切使わずに、ギターとピアノを物理的な仕組みによって鳴らすことで、2010年代の坂本と大友の即興演奏の特徴を再現します。本作品のためにYCAM InterLabは、大友によるギターの即興演奏の特徴を抽出し、自動演奏する装置を開発。また大友による監修の元、坂本の残したピアノの打鍵データ (MIDI) から即興演奏の特徴を再現。本人たち不在のもとで、永遠に演奏を生成し続ける作品です。



本展に向けた作品制作の様子 (2026)
撮影：青山真也

3. 18年ぶりのYCAMとのコラボレーション

2008年にYCAMで開催された大友の初の展覧会「大友良英 / ENSEMBLES」は、それまでの音楽活動をさらに拡張する試みとして、多くのアーティストや市民との協働がテーマでした。YCAM全館を使って展示された、4つのサウンド・インスタレーション作品全てにおいて、その場で音楽が生成され、二度と同じ瞬間が訪れない仕組みをYCAM InterLabとの協働で開発しました。YCAMでは、その後も坂本龍一をはじめ、国内外の数々のアーティストとの協働を実現してきましたが、18年の時を経て再び大友とのコラボレーションが実現します。



本展に向けた作品制作の様子 (2026)
撮影：青山真也

大友良英 + YCAM 新作展「即興！」 先行 展示作品

会期：2026年7月24日（金）～



大友良英 + 青山泰知 + 伊藤隆之《without records》(2008)
撮影：丸尾隆一 (YCAM)

ポータブル・レコードプレイヤー約100台を使用したサウンド・インスタレーション《without records》

本展開催に先駆け、7月24日（金）より、YCAMのホワイエで、大友良英、美術家の青山泰知、エンジニアの伊藤隆之の手によるサウンド・インスタレーション《without records》の先行展示を行います。

本作は2005年に大友が最初に手がけた展示作品で、その後もさまざまな姿に発展し、国内外で発表、2008年にもYCAMで《without records》の大規模展示が行われました。「即興」と「協働」を基本に置いた本作品は、今日に至るまで大友の展示作品の根幹であり続けます。10月17日（土）より開催される本展で発表される3つの新作展示のルーツともいえる《without records》が、これから制作される3つの新作をつなぐ回廊のような、あるいは神経細胞のような役割を担います。1970年代前後に流通し、既に役目を全うした使用済みの100台ほどのポータブル・レコードプレイヤーたちが本作品の主演です。全てのプレイヤーは、多くの人たちの手により、レコードなしでプレイヤー独自の音を発するようにさまざまな方法で改造が施されます。これらのプレイヤーを星座のように配置し、自動演奏でオーケストラのようなアンサンブルを行ないます。極めてアナログな作品ですが、2度と同じ瞬間のないポータブル・レコードプレイヤーたちの永遠に続く即興的なアンサンブルを独自システムにより実現します。

※《without records》は10月17日（土）からの本展示でも引き続き公開します

大友良英（おおとも・よしひで）

1959年横浜生まれ。実験的な音楽からジャズやポップスの領域までその作風は多種多様、その活動は海外でも大きな注目を集める。また映画やテレビの劇伴作家としても数多くのキャリアを有する。近年は「アンサンブルズ」の名のもと様々な人たちとのコラボレーションを軸に展示作品や特殊形態のコンサートを手がけると同時に、一般参加型のプロジェクトにも力をいれている。震災後は十代を過ごした福島でプロジェクトを立ち上げ、2012年プロジェクトFUKUSHIMA!の活動で芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞。2013年には『あまちゃん』の音楽でレコード大賞作曲賞他数多くの賞を受賞している。2014年アンサンブルズ・アジアを立ち上げ音楽を通じたアジアのネットワーク作りを奔走。2017年札幌国際芸術祭の芸術監督を2019年には福島を代表する夏祭り「わらじまつり」改革のディレクターも務めた。

青山泰知（あおやま・やすとも）

1960年北海道旭川市生まれ。宮城県仙台市在住。美術家として活動するほかに、ライブ、DJ等の音楽活動も行う。1995年以降、大友良英とのコラボレーションを断続的に行う。

伊藤隆之（いとう・たかゆき）

1978年生まれ。東京都出身。2022年まで山口情報芸術センター[YCAM]でR&Dディレクターとして研究開発プロジェクト全般のディレクションを担当。音響デザインから、システム設計、ソフトウェア開発、バイオテクノロジーと分野を限定せずに、作品制作を始めとした数多くのプロジェクトに関わってきた。現在はシビック・クリエイティブ・ベース・東京 [CCBT] 勤務。

大友良英 + YCAM 新作展「即興！」 本展 展示作品

会期：2026年10月17日（土）～2027年3月1日（月）

新作《DUO》

アーティスト：大友良英、坂本龍一

会場：スタジオB

坂本龍一が生前におこなったピアノでの即興演奏の運指データを使用し、大友の自動演奏ギターと共演する新作サウンド・インスタレーション作品。坂本のために特注で制作された信号制御ピアノと、YCAM InterLabが開発した大友の演奏を自動化したギターが即興デュオ演奏を生成します。



2012年にYCAMで開催されたコンサート「2050年を想像する音楽—ドビュッシーとケージからの発想」リハーサルの様子
写真左：大友良英／写真右：坂本龍一
（撮影：田邊るみ）

新作《"filaments" in the Park》

アーティスト：Filament (Sachiko M & 大友良英)

会場：中庭、山口市中央公園

Sachiko Mと大友によるユニット Filament。「聴く」ことを中心に据えた即興的音楽活動を実践してきた同ユニットによる野外サウンド・インスタレーション作品。環境音や喧騒の中で、自分の耳を澄まし、小さな変化に集中することで、鑑賞者の聴取体験がさまざまな音の要素を繋いでいきます。



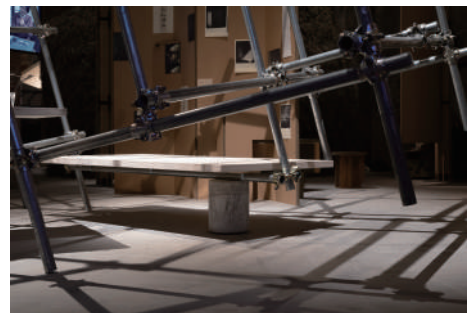
《"filaments" in the Park》制作の様子（2026）
撮影：青山真也

新作《ダンス》（仮）

アーティスト：大友良英、持田敦子、伊藤隆之

会場：スタジオA

無数のスピーカーを大空間に設置し、膨大な音源を再生する音響と、美術家・持田敦子による空間表現が呼応する新作インスタレーション。音質や演奏技術、音の持つ情報強度の幅が極端に広い音源を扱い、構造物から生じる物理音も入り混じり混然と立ち上がる音楽。コンピューターの演算、人の手による操作などパフォーマンス要素も含まれる予定。



持田敦子《Dancing Teahouse》（2025）
撮影：Lloyd S. Lee

開催概要

大友良英+YCAM 新作展「即興！」

2026年10月17日(土)～2027年3月1日(月) 10:00～19:00
山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA、スタジオB、中庭、山口市中央公園ほか
休館日:火曜日(祝日の場合は翌日、但し9月23日は開館)、9月24日、年末年始(12月29日～1月3日)
アーティスト:大友良英、青山泰知、伊藤隆之、坂本龍一、Sachiko M、持田敦子
入場有料(一部無料)

先行展示

大友良英+青山泰知+伊藤隆之

《without records》

2026年7月24日(金)～ 10:00～19:00
山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ
入場無料

SNS Instagram: @otomo_sokkyo
#ハッシュタグ #大友良英即興 #大友良英展 #YCAM

主催:山口市、公益財団法人山口市文化振興財団
後援:山口市教育委員会
助成:令和8年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業
共同開発:YCAM InterLab
企画制作:山口情報芸術センター [YCAM]
キュレーション:西翼 (YCAM)

同時開催

Yamaguchi Seasonal 2026

坂本龍一+YCAM Forest Symphony

2026年7月24日(金)～12月6日(日) 10:00～16:30
常栄寺(山口県山口市宮野下2001-1)
入場無料 ※ただし、常栄寺雪舟庭拝観料は別途必要
休場日:火曜日(祝日の場合は翌日) ※これ以外に臨時の休場日がございます。
詳細はウェブサイトでご確認ください

YCAMオープンラボ 2026

2026年7月25日(土)
山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ
入場無料

<一般問い合わせ>

山口情報芸術センター [YCAM] 〒753-0075 山口県山口市中国町7-7
TEL: 083-901-2222 / Email: information@ycam.jp / https://www.ycam.jp/
<アクセス>

新幹線「新山口駅」→(JR山口線)「湯田温泉駅」
飛行機「山口宇部空港」→(バス)「新山口駅」→(JR山口線)「湯田温泉駅」
最寄駅「湯田温泉駅」からタクシー5分または徒歩25分
駐車場:161台(無料)

チケット情報

一般	1,000円
山口市民/29歳以下	500円
any 会員/18歳以下	無料
障がい者手帳をお持ちの方と介助者1名	無料

※ ホワイエ、中庭、山口市中央公園は無料

特設ウェブサイト

<https://otomo-sokkyo.ycam.jp>

※ 4月20日(月) 公開予定

音楽家 | 大友良英

ギタリスト/ターンテーブル奏者/作曲家/
映画音楽家/プロデューサー

大友の音楽および演奏スタイルの展開は、時代とともに変化してきた録音・再生技術や、増幅、編集技術の進展と密接に同期してきました。サンプリング、ノイズ、フィードバックなど、従来は「音楽」の枠外とされてきた音響的アプローチを作曲や演奏に取り入れ、それらをひとつの音楽様式の中に共存させることで、大友の音楽は革新を重ねてきました。その一方で、一般の人々との協働や障害のある人たちとのコラボレーション、アジア各国の先鋭的な音楽家とのネットワークづくりなど、これまでの先鋭的な音楽家がやり残していた領域にも果敢に挑戦し、その集大成ともいえるのが2008年にYCAMとの共同で行われた「大友良英/ENSEMBLES」展でした。この展示を大きな契機として東日本大震災以降は、それまでの活動を踏まえつつ被災地での市民との協働の道をさまざまな形で模索、この活動で2012年には芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。また90年代から映画やテレビのサウンドトラック作曲家としての顔をもち、2013年には「あまちゃん」の音楽で日本レコード大賞作曲賞を受賞するなど、ノイズ等の先鋭的な音楽からポップスや映画音楽まで幅広いジャンルを手がけるアーティストです。



大友良英

大友良英から本展開催に向けてメッセージ

今回の展示のテーマは「即興！」です。

2008年にYCAMと本格的なコラボレーションを行った「ENSEMBLES」展は、私の創作において大きなターニングポイントにもなった作品で、多様な人々との「協働=アンサンブル」が当時の大きなテーマでした。震災やパンデミックを経て、「協働=アンサンブル」をより豊かなものにするのは「即興」ではないか、そんな思いを強くしています。

私の音楽にとって「即興」は根っこと言えるくらい大切なものですが、多くの創作にとって、もっと言ってしまえば、この先の社会にとっても「即興」はとても重要なもの、根本にあれば社会はより豊かになるもの、そう思うようになりました。

前回の展示から18年の時を経て、私自身の出発点を見つめることなるであろう「即興」をテーマに、YCAMやさまざまな人々との新たなアンサンブルを始めたいと思います。

大友良英

山口情報芸術センター[YCAM]

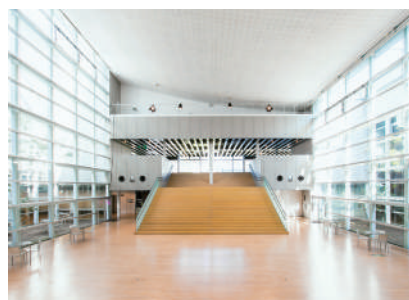


撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

山口情報芸術センター（Yamaguchi Center for Arts and Media）通称「YCAM（ワイカム）」は、山口県山口市にあるアートセンターで、展示空間のほか、映画館、図書館、ワークショップ・スペースなどを併設しています。2003年11月1日の開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動。展覧会や公演、映画上映、子ども向けのワークショップなど、多彩なイベントを開催。市民やさまざまな分野の専門家とともに作り、ともに学ぶことを活動理念としながら、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性、さらには人間にとっての情報の意味について、YCAMは幅広いアプローチで探求をおこなっています。

YCAM InterLab とは

YCAMの内部に設置された研究開発チームで、キュレーター、エディター、エンジニア、デザイナーなど、多彩なスキルを持つ常駐スタッフにより構成され、YCAMのさまざまな事業を主導しています。複数の専門分野を横断し市民やアーティスト、研究者、外部のエンジニアたちとともに、コンセプトづくりから作品制作、ワークショップの開発などを行っています。これまで坂本龍一をはじめ、近年ではオロン・カツ（オーストラリア）、ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ（オランダ）、許家維（台湾）、ホー・ツーニエン（シンガポール）など国内外の数々のアーティストとの協働を実現してきました。



撮影：勝村祐紀



撮影：宮本剛



撮影：勝村祐紀